

# もう一步の闘い！政治解決に全力をあげよう！

## —地本独自行動、闘争団オルグを取り組み—



発行所  
国鉄労働組合長野地方本部  
長野市中御所3-2-22  
発行者 平山 芳夫  
編集者 清水 孝次

2009年7月1日  
第1464号

●国労は  
一人の困難を  
皆で解決

地方本部は、夏季物販に合わせて闘争団オルグを取り組み、前段行動として6月21日には、駅前街宣・チラシ配布行動を行った。

22日から26日の日程で行った闘争団オルグは、中南信コースに美幌闘争団の長縄孝則団長、東北信コースに紋別闘争団の清野隆団長を迎え、県下の支援共闘の仲間へ闘いの現状報告と夏季物販への協力を要請した。

6月24日に県労働会館でおこなった「紋別・美幌闘争団オルグ国鉄闘争報告集会」には90名が参加し、1047名不採用問題と共に、社保庁の仲間から闘争報告を受けた。

### 地本独自行動を展開

21日、日曜日の夕方の賑わいを見せる長野駅頭で、清野団長、長縄団長、北見闘争団前北富雄団長の3名がそれぞれマイクを握り、23年目を迎えた「JR不採用問題」の早期解決を行き交う市民に訴えた。また、組合員30名でチラシ配布をおこなった。



前北団長(右)と平山委員長

### 県下を回ったオルグ

オルグは、清野団長が、東北信コース(大北・中高・須高・長野・飯水・上小・佐久)、長縄団長が、中南信コース(安曇野・塩尻・木曾・下伊那・上伊那・松本)に入った。

闘争団上京行動(6/18〜30)と重なる厳しい日程であったが、各地区協会の組合員とともに地区労働組合の役員等と同行していた。各単組を細かく回った。緊急集会を開催していた



木曾地区での報告集会

だいた単組や、忙しい中で

丁寧に対応していただいた単組など、それぞれの単組に、この間の物心両面での支援への感謝を述べると共に、明るい兆しの見え始めている闘いの状況、闘争団

### 県報告集会を開催

24日、県支援共闘・地方本部主催の「紋別・美幌闘争団オルグ国鉄闘争報告集会」で、主催者を代表して県支援共闘高橋博久議長は「3月に美幌・紋別北海道交流団、3月25日に出された東京高裁の判決など、今年こそ決着の気持ちを持て、今」と述べ、「もう一步のところまで来ている。総選挙で決着！夏季物販の大きな成果を！」と訴えた。

長縄団長は「長野の皆さんの支援に込めるためにも悔いの残らない闘いをする」「労働者の現状は23年前よりいっそう悪くなり、派遣切りなどで日々の暮らしもできない労働者があふれて



報告と決意を表明する長縄団長

の現状などを報告した。また、夏季物販の取り組みをお願いし、もう一步の支援を要請した。

いる。職を持ち、家庭を持

つ普通の暮らしができない現実がある。私も、不当労働行為で首を切られ23年間放置されてきた。全力で政治決着をめざし「一杯闘う」と決意を述べた。

清野団長は「ホタテ販売の収益により事務局の増員ができ、闘いに集中できるようにした」と感謝を述べ「窓口となる政党へは『雇用・年金・解決金』の要求は国交省は最大限の抵抗をしている。自民党全体の目をこちら側に向けさせられていない。しかし、総選挙後には動きが出るだろうと思っている」「解決に向けて団結が重要だ。当事者の4者は上京行動を通じ、

いっそう団結を深め今後崩れることはない。また、長野に続き水戸地本と名寄闘争団の関係回復もできた。皆さんの力をもう少しお借りしたい」と闘いの現状報告と決意を述べた。

地方本部を代表して平山委員長は「支援共闘の仲間から、闘争団・地本組合員が元気づけられ、労働者の団結、組合の大切さを教えられていく」と感謝を述べ「昨年に続き新採社員が国労に加入した。さらに若い仲間を増やしていかなければならない」「国鉄闘争は解決が迫っている手ごたえを感じている。全力で闘う」と決意を表明した。

社保労の闘いの報告(別掲)を受け、最後に長野地区支援共闘神山議長の団結ガンパロウで集会を閉じた。

### 社保労への支援を！

社保労 井磧書記長



社保労県支部井磧正浩書記長が、第2の国鉄方式といわれる社保庁改革に対する闘いの報告をおこなった。

2004年、国会で社保庁の解体的見直しが決定されて以降の経過を説明し、「『日本年金機構』採用者

決定が、当初予定の3月から2ヶ月遅れた5月19日、設立委員会で正式に決定され、6月25日以降、職員への通知が始まる」「業務外閲覧、国民年金不適正処理での処分者、十数年前の交通事故など業務外での懲戒処分者、時間内組合活動をおこなった職員は採用しないとされ、全国で867名が不採用となっている」

「組合は、6月19日に長官交渉をおこない分限免職を回避する努力を求めた。組合としても『雇用確保プロジェクト』を設置して、何としても雇用の場を確保していく。12月までに雇用先が見つからないという場合には裁判闘争も視野に入れている。総選挙を含め、やれることは全ておこない闘っていく」と決意を述べた。

# 全国大会・東日本本部大会 代議員が決まる

六月二七日に公示された全国大会及び東日本本部大会代議員選挙は、七月一日に立候補届出が締め切られ、いずれも定数通りの立候補となったため、左記の通り無投票当選となった。(選挙公示第二号を参照)

全国大会代議員当選者については、その抱負を掲載するので参考にされたい。

各代議員には、長野地方本部を代表し、それぞれの大会成功に向けて奮闘を期待する。

## 第77回全国大会代議員 定数3名 (届出順)

氏名	年齢	職 場	組合役職名
佐藤正幸	50	長野機械技術セ	地本書記長
諏訪浩一	49	長野総合車両セ車両検修科	地本副委員長
清水孝次	49	松本運輸区 運転士	地本執行委員

## 第23回東日本本部大会代議員 定数4名 (届出順)

氏名	年齢	職 場	組合役職名
粕尾 彰	48	小海線営業所 中込駅	地本執行委員
塩原智久	51	松本運輸区 車掌	支部書記長
吉澤英夫	54	長野駅 営業	地本執行委員
丸山博巳	55	長野総合車両セ車両検修科	支部執行委員

第77回定期全国大会は、8月21日～22日に静岡県伊東市で開催される。また、第23回東日本本部定期大会は、9月23日～24日に東京地本管内で開催される。

### 以下に全国大会代議員当選者の抱負を掲載する

## 佐藤正幸

五〇歳  
長野機械技術センター  
施設技術主任  
地本書記長

国労の最重要課題であるJR不採用問題の早期解決に向け、4者4団体の結束と、あらゆる妨害勢力を撥ね退け、政治対策、裁判闘争、大衆行動をしっかりと切り切るなかで、定期全国大会を迎えることとなる。

長野におけるこの間の取り組みは、各種中央行動への参加はもちろん、地本独自行動、闘争団との関係修復からさらなる支援の強化、また公明党のみならず自民党内にも不採用問題の「窓口」ができたことを受けて、地元国会議員要請をいち早く取り組むなど、JR不採用問題の早期解決に向け、地方からその環境作りを全力をあげてきた。

JR各社は、旅客・貨物会社ともに効率化による要員不足が顕著となり輸送障害の多発と復旧対応への課題、技術力の継承問題など、安全・安定輸送の確立と労働条件改善はまさに表裏一体の問題であり、だからこそ職場における国労の役わりも極めて重要といえる。あわせて、JR会社との和解後も依然として残る懸案問題も、各級機関が一体となり、新たな差別を許さない闘いの強化とこの闘いを通して、組織強化拡大につなげていくことこそがなにより重要である。長野地本は、昨年に引き続き新規採用者を国労に迎えたが、この事実と取り組みの背景をしっかりと認識し、全国に発信することも重要な任務といえる。今大会を通して国労の団結を組織内外にしっかりと示すとともに、直面する闘いの総決起の場となるよう、大会成功に向けて全力を挙げる決意である。

## 諏訪浩一

四九歳  
長野総合車両セ 車両検修科  
車両技術係  
地本副委員長

1. JR不採用事件の政治解決に向け、闘争団の求める解決要求に基づいた解決の道筋を早急につくり出すことこそが今求められている。今日まで、本部、各地方、4者4団体が一体となって関係省庁、国会議員等への要請、裁判所前をはじめとした座り込み行動、自治体決議採択の取り組みなど、闘いに全力をあげてきた。これまでの成果と前進面をしっかりと確認するとともに、本部を信頼し、解決まで4者4団体の団結をしっかりと維持し、引き続き全力をあげることである。

2. 組織強化拡大について、JR会社と一括和解以降、地本内各分会における積極的な取り組みの結果、国労復帰、平成採用の女性、新採の連続加入の成果につながっている。国労加入の条件はどの職場にもそろっているなかで、各機関、分会組合員が自信と確信を持って「本気になって取り組む」事が重要であるというこのことを、これまでの経験を通して全国の仲間へ訴えたい。

3. 今日の政治や社会情勢は、派遣切り、リストラに代表される失業者の増大、年金、医療、福祉などの制度が改悪され続け、自らの将来に不安を抱える人が多くなり自殺者も年間3万人を超える状況である。労働や暮らしの安心には、今の自公政権にとって代わる政権交代を実現させなくてはならない。来る総選挙闘争を県・地区労組会議に結集する仲間とともに地方から全力で取り組むことが求められている。

代議員として、定期全国大会成功に向け奮闘する決意である。

## 清水孝次

四九歳  
松本運輸区  
運転士  
地本執行委員

一月の中央委員会では、東京高裁が判決を出さずに「もう少し見守ろう」と判決を先送りにするくらい政治的解決環境を大きく作り出そうと確認しあいました。闘争団の仲間は、年度末までの解決に向けて悔いを残してはならないと、今までにない上京行動を取り組み、全力をあげて闘い抜きました。しかし、そうした政治環境を作り出すことができませんでした。

何故、そうした「政治環境」を作りあげることができなかったのか。

その総括なくして、「4者4団体の団結を崩さず、政治解決に向けて全力をあげよう！」と、単に確認しあう全国大会であってはならないと思います。

22年の歳月をかけて闘争団・家族の筆舌に尽くせない格闘と全組合員の団結と実践によって確かに政治解決の道筋の明かりが見えてきました。その「明かり」を確たるものにして、「政治解決」にかに到達するか、そのための方針を確認する大会にしていかなければならないと思います。

国家を相手にした闘いゆえに簡単に解決が図れるものではありません。だからこそ、「大衆実力闘争」で相手側に迫っていくことが、いま、求められています。

格差・貧困・首切りに喘ぐ労働者の声をしっかりと聞くと共に、一緒に闘う国労へと私たちが自らを変革していくことも今、求められています。そのために奮闘していく決意です。